

平成28年度事業報告書

学校法人名 学校法人 加寿美学園

学校法人所在地 熊本市中央区内坪井町4番8号

平成28年度事業報告書

1. 法人の概要

法人名	加寿美学園		理事長名	森 弘昭			
所在地	熊本市中央区内坪井町4番8号		電話番号	096-354-2333			
設立年月日	昭和19年2月5日		資産の総額	1,590,633千円(平成28年度3月末現在)			
目的	教育基本法及び学校教育法(昭和22年法律第26号)により次に掲げる学校を設立する。 (1) 熊本中央高等学校 高校 全日制課程 普通科・総合ビジネス科・看護科 専攻科 全日制課程 看護専攻科 (2) 坪井幼稚園						
設置する学校名	課程	科別	学則定員	5月1日生徒(園児)数		5月1日常勤者数	
				定員	実員	教員数	職員数
熊本中央高等学校	全日制	普通科	480	480	332	51	15
		総合ビジネス科	240	240	139		
		看護科	240	240	270		
		看護専攻科	160	160	144	7	1
坪井幼稚園			80	80	83	7	1
計			1,200	1,200	968	65	17
役員等に関する事項		勤務形態	選出根拠	就任年月日	氏名	担当職務・現職	
理事	任期4年 定数7名 現数7名	常勤	寄付行為第7条1項2	H28.05.27	森 弘昭	理事長 元県信用組合理事長	
		常勤	寄付行為第7条1項1	H28.05.27	池田 廣	熊本中央高等学校校長	
		非常勤	寄付行為第7条1項2	H28.05.27	石井 昭男	石井盛和堂社長	
		非常勤	寄付行為第7条1項2	H28.05.27	山下 能子	同窓会会長	
		非常勤	寄付行為第7条1項3	H28.05.27	竹下 英	熊本銀行頭取	
		常勤	寄付行為第7条1項2	H28.05.27	松永 弘史	学園事務長	
		非常勤	寄付行為第7条1項3	H28.05.27	和田 秀雄	元熊本県農政部長	
監事	任期4年 定数2名 現数2名	非常勤	寄付行為第8条	H28.05.27	田中 正友	天草自動車学園会長	
		非常勤	寄付行為第8条	H28.05.27	金田 茂	横浜幸銀信用組合顧問	
評議員	任期4年 定数17名 現数17名	常勤	寄付行為第24条1項4	H28.05.27	森 弘昭	学園理事長	
		常勤	寄付行為第24条1項4	H28.05.27	池田 廣	熊本中央高等学校校長	
		常勤	寄付行為第24条1項1	H28.05.27	松永 弘史	学園事務長	
		常勤	寄付行為第24条1項1	H28.05.27	泉 洋一	熊本中央高等学校教頭	
		常勤	寄付行為第24条1項1	H28.05.27	松永 行弘	教諭	
		常勤	寄付行為第24条1項1	H28.05.27	中富 尚士	教諭・教務部長	
		常勤	寄付行為第24条1項1	H28.05.27	竹原 一輝	教諭・司書教諭	
		常勤	寄付行為第24条1項1	H28.05.27	小椋 衣津	坪井幼稚園園長	
		非常勤	寄付行為第24条1項2	H28.05.27	山下 能子	同窓会会長・学園理事	
		非常勤	寄付行為第24条1項2	H28.05.27	安田 晴子	同窓会副会長	
		非常勤	寄付行為第24条1項2	H28.05.27	古川 静子	同窓会副会長	
		非常勤	寄付行為第24条1項3	H28.05.27	中川 美紀	後援会会長	
		非常勤	寄付行為第24条1項3	H28.05.27	坂梨 さゆり	後援会副会長	
		非常勤	寄付行為第24条1項3	H28.05.27	後藤 清子	後援会副会長	
		非常勤	寄付行為第24条1項4	H28.05.27	石井 昭男	学園理事	
		非常勤	寄付行為第24条1項4	H28.05.27	竹下 英	学園理事	
非常勤	寄付行為第24条1項4	H28.05.27	和田 秀雄	学園理事			

2. 事業の概要

①事業の概要

1. 教育事業

・熊本中央高等学校

○普通科

1) 基礎学力の向上に重点をおき、教養を高めるとともに、生徒の個性を育て、良き市民としての高い知性と豊かな情操を養うことを目的とした。

高学歴化・生涯学習社会を迎え、全クラスを進学コースのカリキュラムとした。学科全体の方針は以下の通り実施した。

①授業を主力として基礎学力の向上を図った。

- ・進路指導を徹底し、早期に学習の目標を持たせた。
- ・学習の動機づけに工夫を凝らすとともに、授業展開に計画性とダイナミックさを持たせる努力をした。

②課外・補習は生徒のニーズに応える観点から希望者を対象に行った。

- ・学期中の課外は朝または夕の各 1 時間とし、授業との関連を考え、系統性のあるものとした。
- ・休暇中の課外、補修も学期中の課外と同様に系統性のあるものとした。

③外部テスト・検定等に挑戦させた。

- ・進路指導の観点から段階を追って難易度の高いものに挑戦させ、基礎力を養うとともに生徒の学力の客観的評価を図った。

④学習する雰囲気をつくる様に仕組んできた。

- ・保護者会との連絡を密にし、家庭学習を奨励した。

2) 本人の適性と希望により 2 年次より、次の各コースに分割した。(2 年生・3 年生)

- ・特進コース 1 年次の学力選抜クラスの生徒を中心にクラス編成する。国公立や私立大学を目指し、大学入試センター試験対応の授業を行った。
- ・標準コース バランスの取れたカリキュラムで学習し、推薦入試や小論文にも力点を置き、大学・短大・専門学校への進学や就職試験にも相談対応した。
- ・国際コース 外国人教師による英会話と韓国語レッスン、海外ホームステイや姉妹校(韓国・論山女子商業高等学校)との交流を通して、国際的視野を広げるとともに日本文化を学習させグローバル社会で活躍できる人材の育成をおこなった。漢字検定・数学検定・英語検定・ハングル能力検定等の取得をさせてきた。国際関係や国際文化、外国語学部系などの大学・短大への進学を目指すよう指導を行った。
- ・芸術コース 音楽・美術など芸術科目に重点を置き、時には個別指導で個性を伸ばして発表会に参加させ文化的教養を高めていった。幼児教育や保育、芸術学部系などの大学・短大への進学を目指すよう指導を行った。

○総合ビジネス科

商業科目をベースに、一生を「学び」としてとらえる生涯学習の基礎を学ぶ県内初の学科で、生徒一人ひとりの個性を伸ばすきめ細かな指導(少人数指導)を展開し、生徒の自主的な学習態度を養った。能力・適性の伸長を図り自己実現をめざし、幅広い資格が取れる、幅広い進路選択ができる学科として学習してきた。

①生徒一人ひとりの個性を伸ばすきめ細やかな指導(小人数指導)を展開し、生徒の自主的な学習態度を養い、一人ひとりの能力・適性を高めながら、自己実現を目指した。

②マナー教育・進路指導・就業体験(インターンシップ)・課題研究・実習・体験学習にも力を入れ、主体的な職業選択の能力や職業意識の育成を図ってきた。また、地域と連携をとりなが

- ら、ボランティア活動や地域行事などにも積極的に参加させ、幅広い人材の育成に努めた。
- ③1年次には、マナー教育・進路指導を目的として、ビジネスの基礎・基本となる心構えや理念を学び、ビジネスへの理解を深めながらコミュニケーション能力を身に付ける基礎・基本の学習を行なった。
- ④2年次には、介護実習・就業体験を実施。(福祉リビングコース)10名が介護職員初任者研修を終了。
- ⑤3年次には、「中央商店」開設、ビジネス実践(ライフプラン)の授業では、様々なガイダンスを受けながら、自分の適性を知ると同時に、進路決定と多岐にわたった進路選択をさせた。
- ⑥全商の各種検定状況
全商検定4種目1級合格1名、3種目1級合格2名、他種目では延べ27名の1級合格者を出した。
- ⑦卒業生進路
大学2名、短大1名、専門学校17名、事務系3名、販売4名、サービス11名、製造4名、福祉施設2名、病院1名他。
- ⑧実施検定

検 定 種 目		
5月	被服製作・食物調理検定	
6月	全商珠算・電卓検定	全商簿記検定
7月	全商ビジネス文書実務検定	全経電卓計算能力検定
9月	全商情報処理検定	
11月	全商珠算・電卓検定	全商ビジネス文書実務検定 被服製作・食物調理検定
12月	全商英語検定	
1月	全商情報処理検定	全商簿記検定 全経社会人常識マナー検定
2月	全商商業経済検定	全経電卓計算能力検定

○看護学科

3年間で高等学校教育課程を修め、基礎学力と教養を身に付けるとともに、看護学の土台となる基礎知識、基本的技術を学習。専攻科2年間でより専門的な科目を学習し、5年間で全課程を修了させ、看護師国家試験の受験資格を取得できるように学習指導を行った。

- ①専門科目を学習すると同時に、将来看護師として自分の行動に責任を持ち、心ある看護を提供できるような豊かな人間性の育成に努力した。
- ②看護学科5年間の教育目的として、看護の職業人としての誇りと自覚を持たせ、あらゆる人々の健康状態に応じた看護援助の実践を成しうる人材を育成努力した。

・坪井幼稚園

本園は“遊び”を通して「こころ」と「からだ」を育むことを教育理念としている。この教育理念に基づき室内活動や園外活動を行う中で、季節を五感で感じながら自分だけでなく相手を思いやる豊かな心の育ちが見られた。幼児期は個々の発達の違いが顕著に表れるため、個別の教育的ニーズのある幼児に対しては、同じ場で共に学び合い、園・保護者・各関係機関と連絡会を行的確に伝える指導を提供する等インクルーシブ教育が推進された。

また、熊本地震の影響にて余震等で生活や環境の変化に不安を表している子どもには、丁寧に対応していき、安心して過ごせる環境づくりを行うことで通常の生活に戻れることができた。避難訓練も行い安全教育に力を入れた。

1) 指導計画とし、以下の5領域のねらいが達成されるよう実践を行った。

- ①健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う。

- ②他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。
- ③園内の様々な環境に好奇心や探求心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。
- ④経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。
- ⑤感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

2) 子育て支援事業として「預かり保育」と「未就園児の親子登園」をおこなった。

- ①預かり保育では、預かり時間の延長による保護者の精神的負担の軽減や子どもに対し縦割り形態での遊びの提供・家庭的な環境設定による子どもたちの心身の安定などを心掛けた。
- ②未就園児の親子登園では、遊び場の提供や保護者の悩みへの支援など、地域の幼児教育センターとしての役割を担う事が出来た。

2. 補助活動事業

- ①寄宿舎 第1寮(女子) 35名 第2寮(男子) 18名 合計53名【平成28年5月1日現在】
- ②幼稚園預かり保育

3. 収益事業

なし

4. その他の事業

なし

②計画及び進捗状況

(単位：千円)

科目	計画・予算	実績・決算	増減	進捗状況等
(帰属) 収入関係				
寄付金	6,937	7,258	▲321	事業活動収支計算書より
事業活動支出関係				
人件費	623,725	619,768	3,957	事業活動収支計算書より
施設設備関係				
土地	40,300	40,296	4	資金収支計算書より
建物	624,210	624,206	4	資金収支計算書より
構築物支出	38,600	38,585	15	資金収支計算書より
建物仮勘定支出	10,320	10,312	8	資金収支計算書より
機器備品	32,150	32,128	22	資金収支計算書より
図書	260	64	196	資金収支計算書より
計	745,840	745,591	249	

3. 財務の概要

①経年比較

(単位：千円)

事業活動（消費）収支計算書				貸借対照表			
科 目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	科 目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
学生生徒納付金	480,811	486,277	492,619	固定資産	1,551,102	2,070,587	2,731,028
手数料	5,260	6,414	5,929	土地	607,037	607,037	648,333
寄付金	5,801	6,360	8,430	建物	459,644	354,534	1,925,002
補助金	1,064,267	369,600	438,487	特定資産（預金）	0	0	0
資産運用収入	2,860	2,677	2,482	有価証券	10,000	10,000	0
資産売却差額	—	—	—	建設仮勘定	377,378	995,994	10,312
事業収入	—	704	914	その他	113,298	103,022	147,381
雑収入	48,499	79,800	104,632	流動資産	1,064,005	1,159,441	1,371,644
帰属収入合計	1,607,498	951,832	1,053,493	現金預金	269,758	323,401	527,345
基本金組入額	△42,523	△67,691	△37,709	有価証券	—	—	—
事業活動収入の合計	1,564,975	884,141	1,015,784	その他	794,247	836,040	844,299
人件費	588,741	621,315	619,768	資産の部合計	2,615,107	3,230,028	4,102,672
教育研究費	201,799	201,913	452,692	固定負債	416,148	642,380	668,743
管理経費	—	—	—	流動負債	540,847	915,271	1,843,296
借入金等利息	12,317	15,283	10,766	負債の部合計	956,995	1,557,651	2,512,039
資産処分差額	8	98,707	52,187	第 1 号基本金	1,860,098	1,927,773	1,965,162
徴収不能額	32	59	1	第 2 号基本金	0	0	0
徴収不能引当金繰入額	595	19	95	第 3 号基本金	0	0	0
事業活動支出の合計	803,492	937,296	1,135,508	第 4 号基本金	63,000	63,000	63,000
帰属収支差額	804,006	14,536	△82,015	基本金の部合計	1,923,098	1,990,773	2,028,162
消費支出超過額	761,483	△53,155	△119,724	消費収支差額の合計	△264,986	△318,396	△437,529

コメント：

平成 26 年度から文部科学省・熊本県の耐震改築事業補助金を受け、平成 26 年 1 2 月に耐震改築工事に着工し、平成 28 年 2 月に 1 号館・2 号館、平成 28 年 4 月に加寿美寮、平成 29 年 3 月に 3 号館が完成した。そのため建物勘定や支払いの際に発生したつなぎ融資を含む借入金勘定が増加など B/S 面で大きく変化している。

P/L 面では生徒数・クラスの微増による納付金収入や経常費は増加したが、支出面では校舎建替えに伴う仮設校舎 8 棟の建築に伴うリース料 91 百万や校舎の解体費用 7 棟 83 百万、熊本地震による修繕費約 40 百万など大口支出が発生したが、熊本地震による国・県からの震災補助金や地震保険などにより資金収支では前年度並みを確保。建物解体に伴う資産処分勘定も発生。しかしながら、建築関連費の以外に大きな変化はなく推移している。

②主要な財務比率

(単位：%)

事業活動（消費）収支比率				貸借対照表比率			
科 目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	科 目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
消費支出比率 消費支出÷帰属収入	50.0	98.5	107.8	現預金比率 現預金÷流動負債	49.9	35.3	28.6
消費支出均衡率 消費支出÷消費収入	51.3	106.0	111.8	総負債比率 総負債÷総資産	36.6	48.2	61.2
人件費比率 人件費÷帰属収入	36.6	65.3	58.8	固定長期適合率 固定資産÷ (固定負債+自己資金)	66.3	78.6	120.9
経費比率 経費÷帰属収入	12.6	21.2	43.0	前受金留保率 (現預金+短期有価証券) ÷前受金	1,501	1,788	3,143
教育研究費比率 教育経費÷帰属収入	—	—	—	退職引当金資産積立率 退職給与積立金÷ 退職給与引当金	—	—	—
管理経費比率 管理経費÷帰属収入	—	—	—	特定資産留保率 (特定資産+長期有価証 券)÷総資産	0.4	0.3	0
借入金等利息比率 借入金利息÷帰属収入	0.8	1.6	1.0	自己資金増減率 期末÷前期末	173.4	119.9	163.1
納付金依存率 納付金÷帰属収入	29.9	51.1	46.8	基本金充足率 基本金÷要組入額	78.5	64.4	63.1
補助金依存率 補助金÷帰属収入	66.2	38.8	41.6				

コメント：

- ・耐震化新築工事が平成 29 年 3 月に完了した為、建物や構築物、建物解体等の決算処理で各項目の数値が大きく変動している。仮設校舎の賃貸料や校舎解体費、また熊本地震による修繕費などの増加もあり、資金収支、事業活動収支ともに実質支出超過の決算となった。
- ・資金収支では仮設校舎賃貸料 91 百万、地震修繕費 40 百万、建物解体費用 83 百万、事業活動収支には資産処分差額 52 百万が含まれている。
- ・人件費比率は高齢者雇用・再雇用・新卒教員採用を行ない 58.8%となり、許容範囲内と史料。
- ・教務面で生徒数確保のための対策として、普通科芸術コース新設、ホームページの活用、入学案内の冊子化、入学願書の冊子化、体験入学の 2 回実施を行い生徒募集に努力した。耐震改築はその中の重要なファクターであるが、教務と事務を経営の両輪と位置付けて対応をしている。
- ・来期は校舎廻りの外構工事や図書館棟下の改装、グラウンド設備の充実など品質向上のための設備投資を検討しているが、収支状況の更なる改善のために経営基盤の拡充を目指して対応していく。